

埼玉県における産業動向と見通し

10～12月の産業天気図は、「曇り」以上が続くものの、下振れリスクは多い

概況

わが国の景気は、緩やかに持ち直している。埼玉県の景気も、厳しい状況が徐々に緩和されるなかで、緩やかに持ち直している。

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められるなか、景気は持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇による消費の減少、供給制約による生産の減少、海外での金融引き締めによる海外経済の悪化等、下振れリスクは多い。

聞き取り調査の結果、埼玉県の7～9月期の産業天気図は、一般機械、建設が「薄日」となる一方、電気機械、輸送機械、鉄鋼、百貨店・スーパーが「曇り」となり、半年前にみられた「小雨」は解消した。

10～12月期の産業天気図は、いずれの業種とも横ばいながら「曇り」以上の見込みであるが、下振れリスクは多い。

主要産業の動向は、以下の通り。

- **一般機械**の生産は、前年を上回った模様である。先行きについても、引き続き前年を上回って推移するとみられる。
- **電気機械**の生産は、電子部品・デバイス、情報通信機械などでやや低調となっている。先行きも弱含みでの推移が見込まれる。
- **輸送機械**の生産は、前年をやや上回ったとみられる。先行きは、回復の方向にはあるものの、部品・半導体不足の影響等から伸び悩みが続く。
- **鉄鋼**の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きについても、前年を若干下回る水準で推移しよう。
- **建設**は、公共、民間とも手持ちの工事量が多く前年並みで推移した。先行きも、現状程度の推移が見込まれる。
- **百貨店・スーパー**の売上は前年を上回った模様。先行きは、物価上昇による消費者の節約志向が懸念材料。

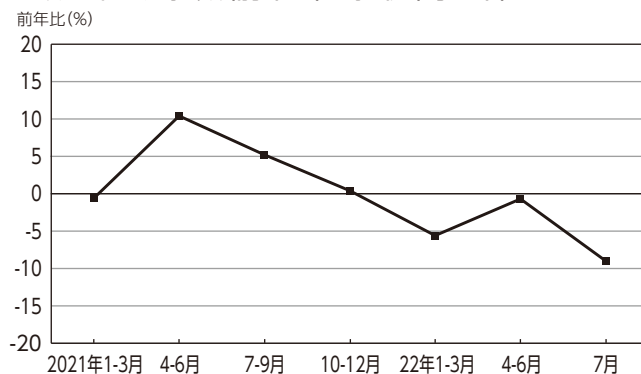
産業天気図

	現状 (7～9月)	今後 (10～12月)
一般機械		
電気機械		
輸送機械		
鉄 鋼		
建 設		
百貨店・スーパー		

天気図の見方



● 鉱工業生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

主要産業の動向

(1) 一般機械…前年を上回る

県内の一般機械（汎用機械＋生産用機械＋業務用機械）の生産指数は、汎用機械が好調に推移したこともあって、昨年7～9月期まで3四半期連続で前年を上回った。10～12月期、本年1～3月期は生産用機械の大幅な落ち込みを受けて、一般機械の生産も2四半期連続の前年割れとなったが、4～6月期は生産用機械が持ち直したことで、前年比＋11.5%と前年を上回った。本年7月についても、汎用機械・生産用機械・業務用機械がいずれも前年を上回っており、7～9月期を通して、一般機械の生産は前年を上回った模様である。

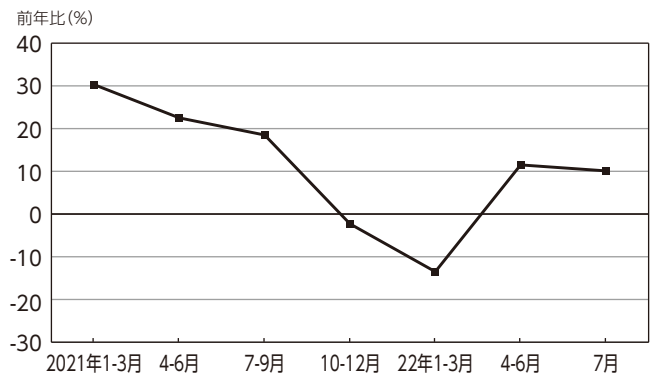
内訳をみると、汎用機械では、空気圧機器の生産が工作機械向けやファクトリーオートメーション向けを中心に引き続き高水準で推移している。歯車も、自動車向けがやや弱い動きとなっているものの、省力化機器向けや工作機械向けなどが好調で、総じてみれば前年を上回っている。

生産用機械では、半導体部品の不足を受けて、全国の半導体製造装置の生産が好調に推移するなかでも、県内の半導体製造装置については月ごとの振れ幅の大きい動きが続いている。

業務用機械では、昨年後半から持ち直してきた医療用機械器具は足元で若干減速しているものの、前年の水準は上回っている。

先行きをみると、汎用機械では、空気圧機器は前年の水準が高かったこともあって、高い伸びは見込めないものの、引き続き工作機械向けなどを中心に堅調に推移しよう。生産用機械では、半導体部品の不足解消にはまだ時間を要すると見込まれることから、県内の半導体製造装置も緩やかに上向いていくとみられる。業務用機械では、医療用機械器具は引き続き底堅く推移しよう。一般機械の生産は、引き続き前年を上回って推移するとみられる。

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)一般機械=汎用機械+生産用機械+業務用機械

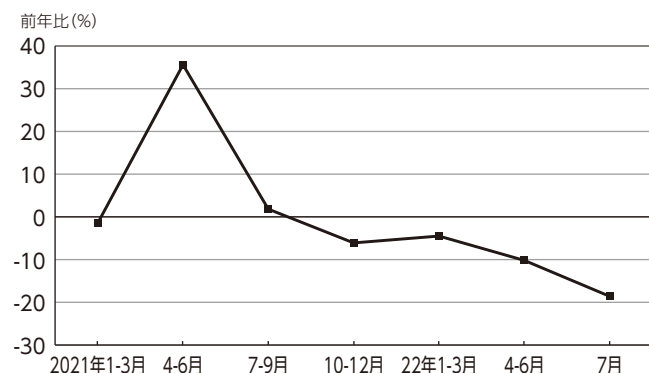
収益面では、ロシアによるウクライナ侵攻以前から特殊鋼やエンジニアリングプラスチックなどの原材料価格が値上がりしていたが、このところの資源価格等の上昇を受けて、コストが一段と押し上げられている。中小企業では販売価格への転嫁が遅れ、収益が悪化する企業が増えている。

(2) 電気機械…生産は前年を下回る

県内の電気機械（電子部品・デバイス＋電気機械＋情報通信機械）の生産指数は、本年1～3月期前年比▲4.5%、4～6月期同▲10.2%と昨年4～6月期の+35.6%の大きな上昇から、前年比マイナスが続いている。7～9月期もマイナスで推移した模様。電気機械の生産は製品によって振れが大きく、このところの減少は情報・通信機械の減少の影響が大きい。電子部品・デバイスは、全体として弱含みとなっているが、使用される製品による差がみられる。電気機械は比較的堅調に推移している。

電子部品・デバイスの生産は、1～3月期前年比▲7.7%、4～6月期同▲8.7%、7～9月期も前年比マイナスが続いたとみられる。自動車向け、産業機器向けの電子部品・デバイスは供給不足を受けて、メーカーが在庫の積み増しに動いたことから、一時生産が大きく増加したが、現在こうした動きは落ち着いており、足元では一服感が出ている。ただ、自動車向け、産業機械向けは電子制御の高度化などか

●電気機械全体の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)電気機械全体=電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械

ら、必要点数が増加しており、メーカーの調達意欲は引き続き強い。家電など民生品向けは在庫が増加しているものもみられ、調整局面にある。

電気機械の生産は、1～3月期前年比+2.1%、4～6月期同+2.1%、7～9月期もプラスで推移した模様。電気機械は県内で生産されるものは、制御機器や計測機器など産業向けがほとんどである。県内で生産される電気機械の多くは、生産用機械や情報システムなどに組み込まれ海外へ輸出されることも多い。生産用機械は海外需要が引き続き強いことに加え、国内でも設備投資が持ち直していることから生産増の動きが続いている。データセンターなど情報化投資も堅調なことなどから産業向けの電気機械の生産は堅調な動きが続いている。

情報通信機械の生産は、1～3月期前年比▲8.6%、4～6月期同▲21.3%、7～9月期も前年比マイナスが続いたとみられる。現在県内での情報通信機械の生産はカーナビ、カーオーディオ、業務用通信機器、計測機器などであるが、カーナビのウエイトが大きい。自動車の生産が半導体不足の影響などにより、減少を続けていることから、カーナビ、カーオーディオなどの生産が影響を受けているためとみられる。

先行きについては、自動車などに使用される製品の生産がやや停滞気味なことから、電気機械全体について弱含みでの推移が続くとみられる。供給制約の問題が解決すると、自動車の電動化や電子制

御の高度化にともなう電子部品の需要増や、5G関連やデータセンター整備に加え、防災、防犯関連などインフラ関連の需要増が期待される。

(3) 輸送機械…生産は前年をやや上回る

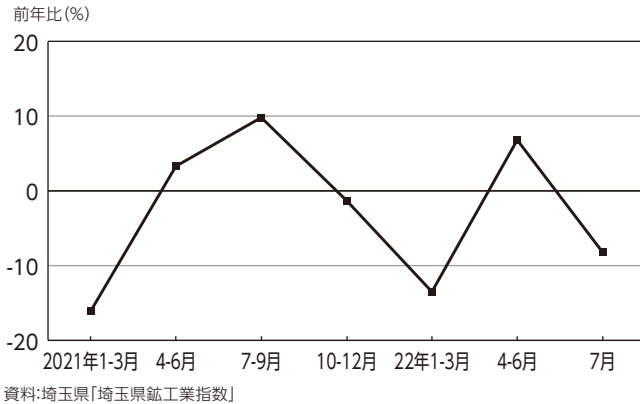
県内の乗用車販売台数(軽を含む)は、半導体不足や部品不足の影響で減産が続き、前年割れが続いた。9月には15カ月ぶりに増加に転じたが、前年に海外でのロックダウン等の影響から大幅に減少した反動増で、新型コロナ前の2019年対比では減少が続いている。消費者の需要は堅調とみられるが、供給面の制約が続き販売台数は低迷している。

生産動向をみると、県内の輸送機械(乗用車・トラック・自動車部品等を含む)の生産指数は、昨年10～12月期に前年比▲1.3%、本年1～3月期に同▲13.5%と2四半期連続で減少したものの、4～6月期は同+6.8%と増加に転じた。半導体・部品不足などで減産が続いたものの、県内メーカーの新型車の発売があり3四半期ぶりに生産増となった。7～9月期の生産も前年をやや上回ったとみられるが、コロナ前の2019年比では大きく減少している。先行きについては、県内の乗用車生産は回復の方向にはあるものの、部品・半導体不足の影響等から伸び悩みが続きそうだ。

トラックの生産は減少している。半導体や部品の不足などの影響が続いており、7～9月期の生産も減少したようだ。需要面では、都心を中心とするマンションや商業施設、オフィスビルなどの再開発が続いていることや、電子商取引(EC)の拡大で大規模な物流施設の建設が続き、物流を支えるトラックの需要は伸びている。トラックへの需要は根強いとみられるが、供給面の制約が続いているため、先行きも生産の減少が続くと予想される。

部品メーカーの生産は、乗用車は前年を上回ったが、トラックは下回ったとみられる。また、部品メーカーでは収益面で厳しい状況が続いているようだ。

●輸送機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



減産に加え、原材料や電気料金などの高騰を製品価格に転嫁できず利益が圧迫されている。先行きについては、乗用車部品メーカーの生産は、回復方向にはあるものの半導体不足の影響等から伸び悩みが続くとみられる。トラックは大手完成車メーカーのエンジン不正問題に伴う出荷停止の影響などもあり、部品メーカーの生産は減少が続くとみられる。

(4) 鉄鋼…前年を下回る

県内の鉄鋼の生産指数は、本年1～3月期まで6四半期連続で前年を上回ってきたが、4～6月期は前年の伸びが+25.2%と高かったこともあって、同▲8.8%と七四半期ぶりに前年を下回った。本年7月も同▲4.9%と前年を下回っており、7～9月期を通して、鉄鋼の生産は前年を下回ったとみられる。

首都圏では、土木用鋼材が堅調に推移する一方、建築用鋼材については今年に入ってやや弱い動きになっている。鉄筋コンクリート造に使用される棒鋼は、建設現場での組立作業を避ける傾向などもあって、H型鋼に比べて低調に推移してきたが、足元では前年並みの水準を維持している。

首都圏の分譲マンションの着工戸数がこのところ減少しており、病院や介護施設などの医療関連施設の動きも一服している。物流施設は、冷凍倉庫などは引き続き好調だが、前年までの水準が高かったこともあって足元では前年を下回っている。テレワー

クの増加などを受けて落ち込んでいた都心部のオフィスは一部に動きがみられる。先行きについても、鉄鋼の生産は前年を若干下回る水準で推移しよう。

鋼材の主原料であるスクラップの価格は、昨年から急激に上昇してきたが、本年春頃に下落に転じた。不動産投資が低迷する中国で鉄鋼の生産が減少したことを受けて、日本からのスクラップの輸出が落ち込み、国内のスクラップ価格も輸出価格の低下に引きずられた。下落に転じたスクラップ価格が足元でやや反発しており、電気代や副資材、物流コストなどが大幅に上昇しているものの、鉄鋼製品価格の引き上げが進んできたこともあって、このところ鉄鋼メーカーの収益は改善している。

鋳物は、2020年の春先にコロナ禍を受けて生産が大幅に落ち込んだものの、その後は持ち直しを続けてきた。2021年の春ごろにコロナ前の水準を回復した後は、工作機械向けや建設機械向けなどを中心に比較的底堅く推移してきたが、本年4～6月期は前年を若干下回った。堅調な公共投資の動きを反映して、高い水準で推移してきた鋳鉄管だが、足元は前年並み程度の水準で推移しているようだ。

今後も、鋳物の生産は前年並み程度の水準で推移するとみられる。収益面では、鋳物用鋳鉄の価格や電気料金の上昇が続いており、コストが大幅に押し上げられている。製品価格の改定交渉が進められているものの、思うようには進んでおらず、先行き

●鉄鋼の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)

